

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1493300139	事業の開始年月日	平成24年2月1日
		指定年月日	平成24年2月1日
法人名	ミモザ株式会社		
事業所名	ミモザ横浜霧が丘		
所在地	(〒226-0016) 神奈川県横浜市緑区霧が丘 5 - 2 5 - 1		
サービス種別 定員等	☒ 小規模多機能型居宅介護	登録定員	25 名
		通い定員	15 名
	☐ 認知症対応型共同生活介護	宿泊定員	8 名
		定員 計	名
		ユニット数	ユニット
自己評価作成日	平成26年1月5日	評価結果 市町村受理日	平成26年3月7日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

小規模多機能型居宅介護の他、グループホーム・デイサービスを併設しており、ご利用者様のADLや認知症の状況に応じてサービスを選択、変更できる。 また多世代交流サロン「あかしあ」では近所の子供や地域住民が利用しているため地域との交流が可能。施設全体の行事も定期的に行い、より地域との繋がりを密にしている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成26年1月25日	評価機関 評価決定日	平成26年2月14日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の優れている点】 ◇利用者は、事業所内1階に併設している「多世代交流サロン」で地域住民やボランティアと日常的に交流ができ、地域に密着した生活を享受している。同サロンには「ボランティア事務局」があり、事業所にとってもボランティアの受け入れが円滑である。 ◇事業所周围には公園や緑地が多く、体調や天候の許す限り車椅子いすの方を含めて、利用者は職員の支援を得て散歩に出かけている。 ◇利用者の状況や目的に応じて、小規模多機能型の他、同一事業所内のデイサービスやグループホームを選択して適切な介護を受けることができる。
【事業所が工夫している点】 ◇看護師が、利用者に関するバイタル記録や家族から入手した医師の所見などの情報を、個人別医療記録として作成しており、職員が閲覧して情報を共有し利用者の介護計画の作成と実践に反映している。 ◇「(病気・医療処置等による施設利用の可否) ご利用判定目安表」を事務所内に掲示し、通い・泊まり・訪問の利用者について、職員の支援可能範囲を明確化している。 ◇併設のデイサービス、グループホームと合同で、事業所の年間行事(夏祭りなど)や避難訓練を効率的効果的に行っている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	ミモザ横浜霧が丘
ユニット名	小規模多機能型居宅介護

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ全ての家族と
		○	2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
		○	2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は掲示し、スタッフ会議等で共有している。	・理念「一人一人の生活を大切に、たくさんの笑顔があふれる、心を込めた介護を提供します」を全職員で作り、事務所に掲示している。 ・毎月のスタッフ会議で理念を確認し、日々の介護では理念に沿った実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事の参加、自治会・商店街に加入。	・自治会、商店会に加入し、利用者は夏祭りや縁日などの地域行事に参加し、地域住民と交流している。 ・絵手紙、書道、音楽などのボランティアを受け入れ、地域住民との交流を大切に利用者を支援している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域ケアマネ事業所、民生委員など施設の見学や勉強会などの場として提供している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回自治会役員、地域包括、家族代表等の参加で、行事報告や緊急時の対応など話し合い、地域の情報も得ている。	・会議では、介護の取り組み状況等の現状報告の後意見交換している。参加者からは、地域ボランティア相談室の紹介、日常の散歩状況の質問、イベント実施時の事業所の使い方等についてのアドバイスを得ている。	会議では、出席者に事業所の改善課題の現状についても説明し話し合っており、出された意見をサービス向上に反映することが期待されます。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2～3か月に一度開催されている地域ケアプラザでのケアマネ連絡会に、ケアマネが参加して、お互いの情報を共有している。	・緑区介護保険課職員から運営面の助言を受け、また、介護手続についての協力を得ている。 ・ケアマネがケアプラザで開催するケアマネ連絡会に参加し、行政や介護関連の情報を得ている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	動き回っている方には適度に休息を取ってもらうために、時間を見てソファに誘導して膝掛けなどを掛けて、休憩時間だということを毎回説明している。	・身体拘束排除マニュアルを基に、社内研修で職員に周知徹底して、拘束の排除に取り組んでいる。 ・フロア入口は安全のために施錠しているが、事業所共通の行事（夏祭りなど）のときは、事業所を開錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に一人一人の状況の変化をスタッフ全体で把握できるように『報・連・相』の徹底を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の参加はしている。今後全スタッフにも施設内で研修を行いたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、契約書を丁寧に一緒に確認しながら説明し、納得して契約している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者には日々の暮らしの中の会話から要望や意見を聞き、家族と話し合いながらケアプランに反映している。また、職員が家族から言われた内容などは管理者、施設長へ報告し情報を共有している。	・利用者の意見は日常会話で、家族の意見や要望は送迎時の会話や連絡帳で把握し、個人記録や申し送り帳に記録して職員間で共有している。 ・食事に関する意見が多く、一口大からきざみ食に変更するなどケアに反映している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のスタッフ会議、申し送りノートや回覧板を使用し意見や提案を聞くようにしている。	・日常の会話や月1度のスタッフ会議で職員の意見を把握している。 ・食事の形態、車いすの利用者増に伴う机やソファの配置替え、昼寝時間の延長など、利用者対応に関する意見が多く、その都度運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社内研修への参加や、取得した資格により手当が支給されている。また、施設内の環境美化による手当もある。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本社の総合研修所が主催している研修には個々に合った内容の研修に参加するように促し、スキルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	デイサービスのスタッフからはパワリハマシンの使い方や体操などを指導してもらい、小規模多機能で実践している。 本社の研修では他施設の職員と交流している。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回や2回目の利用で本人の望みなどを聞いて、その目標に近づくように支援していくことを説明している。また他のご利用者と交流ができるようにスタッフが架け橋になり、輪に入りやすいように支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	最初にご家庭で困っていることやミモザに何を望んでいるかを具体的に聞いて、それに向けて支援していくこと、お互いの情報を共有してその方に適したケアをすることを説明し、少しずつ信頼関係を作っていく		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	最初に話し合いを行い、本人に必要な支援なのかを見極めて、順序よく対応している		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の得意な事や興味がある事を見つけ、活かせるように支援している。 本人の出来る範囲でお手伝いをして頂いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人や家族に無理がないように支援しつつ、家族にも出来るだけ本人の介護に協力して頂き、お互いの情報を共有していくことを伝える。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人といままでと変わらず接していくことができるよう努めている。	・友人が訪れる利用者には、リビングや泊りの部屋を歓談の場として提供し、馴染みの人との関係継続を支援している。 ・利用者の馴染みのスーパーやコンビニでの買い物を支援している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の関係性を考慮し、座席の場所を考え、ご利用者が孤立することのないようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	小規模多機能の利用が終了しても家族やご利用者が安心して現状の生活が過ごせるように、いつでも相談を受けている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご利用者個々の希望などを把握し、本人ができることから少しずつ支援をする。もし困難な場合は、スタッフも少しお手伝いをして、本人にとって何が今一番必要なのかを利用者自身と一緒に考えていく	・利用者との会話や家族の情報を通じて、思いや意向を把握している。 利用者が表出困難な場合は、表情、しぐさなどで把握している。 ・把握した内容は個人記録や申し送り帳に記録し、ケアに反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ミモザを利用される前のケアマネや、家族から本人の生活歴などを聞いて把握していく。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の活動でご本人が出来る・出来ないの現状を把握するように心がけている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意向や家族の意向をきいて、それぞれのニーズに応えられるよう、スタッフ、関係者で話し合いプランに反映していく。	・家族の意見、医師の指示（家族から受診結果を聴取）、モニタリング結果を把握し、関係職員が参加して毎月ケアカンファレンスで介護計画を作成している。 ・3か月、6か月毎に介護計画書を見直して家族の了解を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌やケース記録、連絡帳、スタッフ間の連絡ノートを活用し、情報や様子を記録している。スタッフ間の連絡ノートは必ずスタッフ会議で内容の確認を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の休養のために、通いから泊りに変更したり、感染症で通えない場合、訪問に変更するなど、柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアさんによる催し物や鑑賞会などによる交流を図っている。 消防署の協力のもと、年2回の防災訓練を実施している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者一人一人のかかりつけ医を把握し、緊急時の連絡をとれるようにしている。	・利用者のかかりつけ医での受診を尊重しており、家族が受診に付き添っている。 ・家族からの依頼によっては、職員が通院の付き添いを支援している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師もスタッフの一員として業務に入っており、緊急時には連絡をとれるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	付近の医療機関へは定期的に訪問し、関係作りに努めている。 入院された場合は、ご利用者の情報提供を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に小規模多機能で出来る事を説明している。	・重度化した場合の事業所ができる範囲について家族の了解を得ており、家族・医師・事業所間で密に連絡を取り適切に対応している。 ・法人作成のターミナルケアマニュアルがあり、職員は法人の研修を受けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時にしっかりと対応ができるようにマニュアル作成や研修を行い、対応できるように学んでいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練にはできるだけスタッフには参加してもらっている。 内1回は消防署にも参加して頂いている。	・利用者が参加して、昨年9月、消防署員の立会いのもとで火災そ想定した訓練を行い、消火器などの使用方法の説明を受けた。次回の訓練は、今年3月に予定している。 ・水、食料の3日分以上の備蓄があり、防寒具を備えている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
し						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に利用者様＝お客様という意識を持って日常業務を行っている。また言葉遣いや接遇については随時、スタッフに話をしている。	・常に相手の立場にたった対応を心がけ、日常業務で管理者が職員を指導し、スタッフ会議で確認しあっている。 ・職員は法人の接遇研修を受けて、利用者一人ひとりの性格や心身状況に応じた対応に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が話す内容や言葉に注意を払い、要望やメンタル面での悩みが気軽に話せるような雰囲気を作るようにしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の要望などを受け止めて、一人一人の生活リズムに合わせて対応している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	持参された衣類の中らご自身で選んで頂き、着用されている。 衣類の乱れがあれば随時直している。 起床時の整容や、髭が伸びてきた場合(困難な方は)介助している。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前にしっかりとし口腔体操を行い美味しく食べられるようにしている。また食事や片付けも職員、ご利用者が一緒に行っている。	・食前に皆で口腔体操を行い、個々のペースや嚥下の状況に応じて職員や看護師が介助し、会話を楽しみながら一緒に食事をしている。 ・配膳準備や片づけを行う利用者もいる。時には利用者の希望で和食の店に出かけることもある。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材業者の栄養士が作成したメニューをその方に合った食事形態で提供している。 毎日一人一人の食事、水分摂取量を記録し、適量を摂れるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを必ず行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	時間ごとに声掛けや誘導を行っている。トイレ内ではプライバシー保持のために、出来るところはご自身で行って頂いている。	・排泄チェック表を活用して、定期的に声をかけてトイレ誘導するほか、利用者の表情などから尿意を捉えてトイレに誘い、自立に向けて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給をしっかりとするとともに、食事前の体操や、便秘の訴えがあればお腹のマッサージを行っている。 改善見られなければ、医師に相談している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	ご家族、ご本人の要望に合わせて実施している。	・毎日2/3位の利用者が午前中に入浴している。本人が入りたがらない方には時間をずらし、又、話題をかえて対応し誘導している。 ・湯温は利用者の好みに応じており、入浴時が利用者とゆっくり話す良い機会にもなっている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的に日中は活動して頂き、夜間安眠できるようにしている。 午睡の習慣のある方は、宿泊室でお休み頂いている。 夜間もそれぞれの生活習慣に合わせた対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに服薬情報を入れて、個々にどのような薬を飲んでいるかをいつでも見られるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の趣味を把握して一日を少しでも楽しめるように支援して、特技などを記憶から呼び起こしていけるようにしていく。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節の変化を体で味わって頂くために、天候の良い日は散歩に行っている。	・周辺は公園や緑が多く、車椅子の方も一緒にほぼ毎日散歩に出掛けている。車でのお花見ドライブや都筑区の紫陽花で有名なお寺に出かけることもある。 ・地域の祭り・盆踊りなどのイベントに出かけることもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外食などを企画して、一人一人で支払いをしていただけるように支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書かれた時は投函している。 電話したいと要望があれば、つないでいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	どのような方でも気軽に訪問出来るような空間作りをしている。スタッフ一人一人にも常に慌てることをしないように、余裕を持つての行動をするように話している	・リビングには季節に合わせた利用者手作りの貼り絵やモビール、職員手作り人形が飾られている。 ・適切な温湿度に設定されており、利用者はソファでテレビを見たりゲームやおしゃべりを楽しむなどゆったりと過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにはソファがあるので、くつろぎながら談笑できるようになっている。また独りになりたい方は個室で過ごして頂いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に心地よく過ごしていただけるように、毎日の掃除を欠かさずに行っている。宿泊の際はなじみのものを持ち込まれる方もいる。	・居室はエアコン、ベッド、箆簞、椅子、カーテンが設置されている。 ・居室には、利用者のネームカードが貼ってあり、使い慣れた日用品や衣類を持ち込んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者の動線を妨げないよう考慮し、テーブルやソファを配置している。 フロア内やトイレ、浴室など各所に手すりを設置している。		

目 標 達 成 計 画

事業所名

ミモザ横浜霧が丘

作成日

平成26年2月25日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議の出席者に事業所の改善課題の現状についても説明、出された意見をサービスの向上に反映させる	運営推進会議での意見を取り入れ、サービスの向上につなげる	運営推進会議で、停電時の対応について、訓練に取り入れた方が良いのではないかと意見をいただき、次回の避難訓練に取り入れることにした。（3月17日）	1ヶ月
2					
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。